

ALLEN & HEATH



CTi-1500 スタートガイド



CTi-1500

① 作業を開始する前に、ALLEN & HEATH ウェブサイト (www.allen-heath.com)
で最新の dLive ファームウェアをご確認ください。

■安全上のご注意

取扱説明書には、お使いになる方や他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。以下の注意事項をよくお読みの上、正しくお使いください。

注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

警告

- 水に入れたり、ぬらしたりしないでください。火災や感電の原因となります。
- AC100V 50/60Hz の電源で使用してください。これ以外の電源では、火災や感電の原因となります。
- 必ず専用の電源コードを使用してください。これ以外のものを使用すると火災の原因となります。
- 付属の電源ケーブルを他の製品に使用しないでください。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。コードが破損して火災や感電の原因となります。電源コードが傷んだら（断線や芯線の露出など）、直ちに使用を中止し販売店に交換をご依頼ください。
- 水が入った容器や金属片などを、機器の上に置かないでください。こぼれたり、中に入ったりすると、火災や感電の原因となります。
- 万一、落としたり筐体を破損した場合は、直ちに使用を中止し、修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災の原因となります。
- 雷が鳴り出したら、金属部分や電源プラグに触れないでください。感電の恐れがあります。
- 煙がでる、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常がある時は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。
- 分解や改造は行わないでください。お客様が保守できる部品は、内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となります。

注意

- 不安定な場所に設置しないでください。落下によるけがの原因となります。
- 以下のような場所に設置しないでください。
 - ・直射日光の当たる場所
 - ・湿気の多い場所
 - ・温度の特に高い場所、または低い場所
 - ・ほこりの多い場所
 - ・振動の多い場所
- 機器をラックに設置する場合は、必ず専用のラックマウント金具（オプション）を使用し、重量を支えるために全てのネジをしっかりと固定してください。落下すると、けがや器物を破損する原因となります。
- 配線は、電源コードを抜いてから説明書に従って正しく行ってください。電源コードを差し込んだまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショート等は火災の原因となります。
- 電源を入れる前に、音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害などの原因となります。
- 機器の移動は、電源プラグをコンセントから抜き、他の機器との接続を全て外してから行ってください。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときに、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災や感電の原因となります。

■はじめに

このたびは本製品をご購入いただき、誠にありがとうございます。

まずこちらの取扱説明書をお読みいただき、性能をご理解いただいた上で用途に応じた最適な使用方法を追求してください。

保証について

- ・ 保証書は必ず「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名/所在地」の記入をご確認いただき、製品とともにお受け取りください。お買い上げ日より1年間は保証期間です。保証書記載事項に基づき、無償修理等を保証させていただきます。修理等はお買い上げの販売店までご依頼ください。
- ・ お買い上げ時に「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名/所在地」が正しく記入されていない場合は、保証書が無効になり、無償修理を受けられないことがあります。記載内容が不十分でしたら、速やかに販売店にお問い合わせください。
- ・ 改造など通常の使用範囲を超えた取扱いによる故障や、設計・製造以外の要因で起きた不都合は期間内であっても保証の対象外となります。

故障かな？と思われる症状が出たときには

こちらの取扱説明書をもう一度お読みになり、接続や操作などをご確認ください。それでも改善されないときはお買い上げの販売店までお問い合わせください。調整・修理いたします。

梱包内容

以下のものが揃っていることを確認してください。

- dLive CTi-1500 サーフェイス
- CAT5 ケーブル (2m)
- 安全上のご注意およびマニュアルダウンロードのご案内
- 電源ケーブル

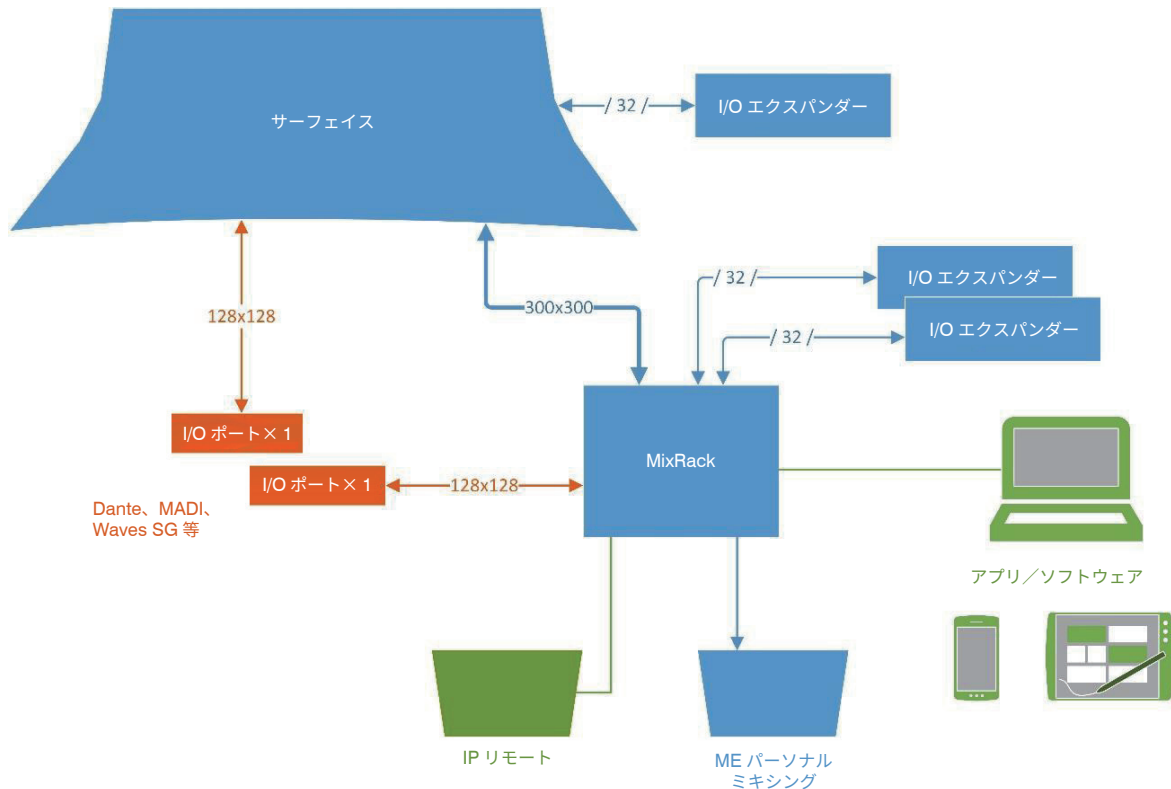
目次

梱包内容	6
目次	6
1. dLive の概要.....	7
1.1 dLive サーフェイス	7
2. 背面パネル	8
3. 前面パネル	10
3.1 Harmony UI.....	12
3.2 Screen (画面) モード	13
3.3 フェーダーストリップ	14
3.4 ミックスの操作方法	15
4. 接続と電源投入	16
4.1 MixRack の接続	16
4.2 テンプレートショーの呼び出し	16
4.3 I/O エキスパンダーの接続	16
4.4 PC またはワイヤレスルーターの接続	17
5. 寸法.....	18
6. 技術仕様.....	19

1. dLive の概要

dLive は、あらゆるライブ音響用途に極めて柔軟なソリューションを提供する分割型デジタルミキシングシステムです。コントロールサーフェイスから入出力機能付きのミックス・エンジンを分離したことで、オーディオとプロセッシングを必要な場所に配置でき、多彩なコントローラーとオーディオ・ネットワーキングを提供します。dLive の詳細については、ALLEN & HEATH ウェブサイトを参照してください。

MixRack は dLive システムの心臓部で、XCVI プロセッシングコアを搭載するほか、オーディオ I/O、コントロール、オーディオネットワーク用ポートを備えています。**サーフェイス**は実質的に MixRack のコントローラーですが、背面にビルトインされたオーディオ I/O コネクタとオーディオ・ネットワーク ポートが追加されています。DX エキスパンダーの追加により I/O の拡張が可能です。



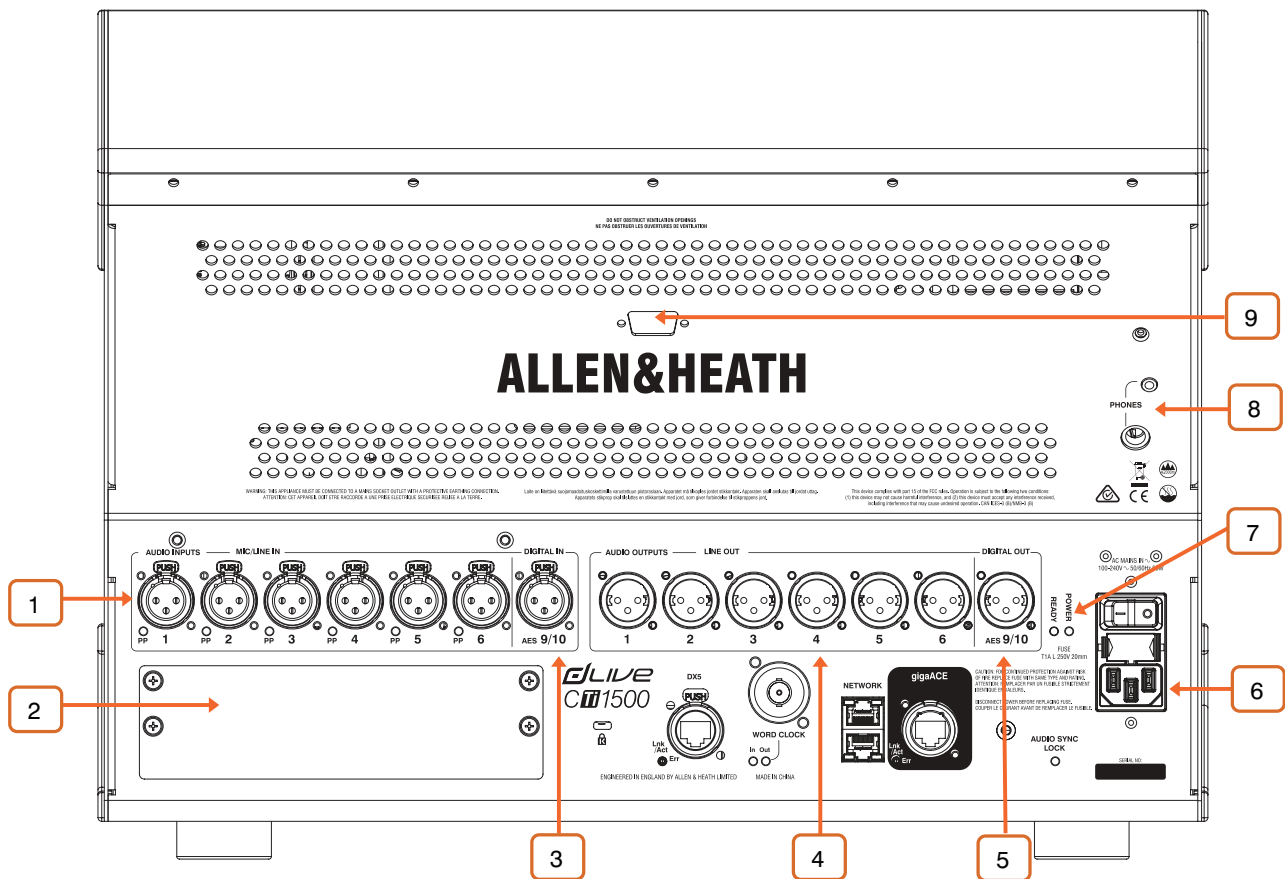
1.1 dLive サーフェイス

dLive C Class は、異なるサイズのサーフェイスが用意されています。C Class (CTi-1500、C1500、C2500、C3500) は共通の I/O を備えており、フェーダーとタッチスクリーンの数のみが異なります。

※ C Class サーフェイスは、S Class 用 Mix Rack DM シリーズと互換性がありますが I/O 数、I/O 用ポート、リダンダント PSU (電源)、gigaACE ⇄ DX 間のケーブル・リダンダントなどが S Class サーフェイスと異なります、ご注意ください。詳細については、それぞれの『スタートガイド』を参照してください。

dLive サーフェイスは次のような機能を備えています。

- フル・アサインابل・レイアウト
- 12 インチ静電容量式タッチスクリーン (1 画面または 2 画面)
- ジェスチャーコントロール (ピンチ、スワイプ、ドラッグ & ドロップ)
- シーン、メーター、FX などの管理用に柔軟に設定可能なウィジェットエリア
- 19 個のアサインابلソフトキー
- モニターエンジニア用のウエッジと IEM のフェーダーストリップ
- 包括的なマルチ・ポイントのメーター
- 日中でも優れた視認性
- USB ステレオレコーディング/プレイバック



2. 背面パネル

1 **マイク／ライン入力**：マイク／ラインレベルのバランス／アンバランス信号に対応した6系統のリコーラブル・プリアンプを搭載しています。ゲイン、パッド、+48V ファンタム電源はプリアンプ内でデジタル制御されます。

内部供給または外部供給にかかわらず、ソケットでファンタム電源電圧が検出されるとPPインジケータが点灯します。

「I/O」または「**Processing**」>「**Preamp**」画面で、任意の入力端子を任意の入力チャンネルにパッチできます。

2 **I/Oポート**：128 × 128chのオーディオインターフェースポートです。システム拡張、デジタルマイクスプリット、録音、または音声分配ネットワーク用のオプションカードをそれぞれ1枚装着できます。使用可能なオプションカードの一覧は、ALLEN & HEATH ウェブサイト (www.allen-heath.com) を参照してください。

i iLive / GLD オプションカード (M-Dante、M-Waves、M-ES-V2、M-ACE、M-MADI) は、M-DL-ADAPT アダプターに装着すると dLive で使用できます。M-DL-ADAPT は、SRC を内蔵した 64 × 64ch、48kHz のインターフェースとして機能します。

I/Oポートとの間の信号のパッチングは「I/O」画面で行います。

3 **デジタル入力**：ステレオ AES3 入力です (サンプリングレート：32k ~ 96kHz)。SRC (Sample Rate Conversion) はバイパス可能です。

「I/O」または「**Processing**」>「**Preamp**」画面で、任意の入力端子を任意の入力チャンネルにパッチできます。

4 **ライン出力**：6系統のラインレベルのバランス XLR 出力です (定格レベル：+4dBu)。

「I/O」画面で、任意の出力端子に信号をパッチできます。

5 **デジタル出力**：ステレオ AES3 出力です（48kHz / 96kHz 切替可能）。

「I/O」画面で、任意の出力端子に信号をパッチできます。

6 **電源**：IEC コネクタ、ヒューズ、ON/OFF ロッカースイッチを備えています。

① パネルに印刷された安全上の注意事項に従ってください。

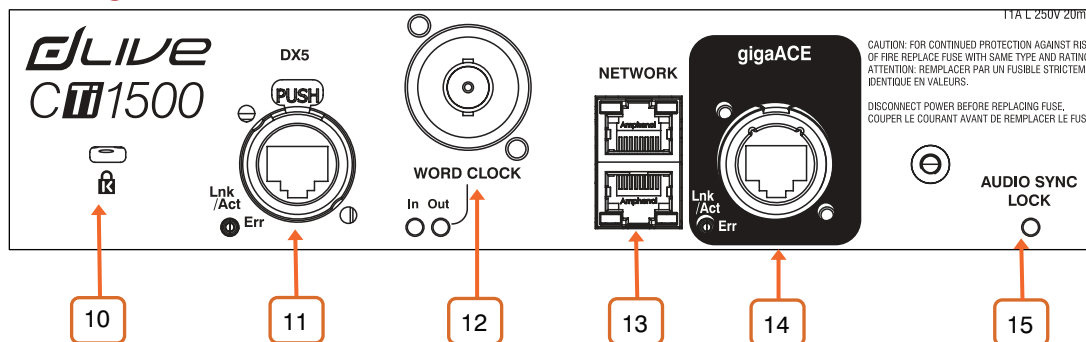
電源ケーブルを固定するためのプラスチック製の P クリップケーブルクランプが付属しています。クランプにケーブルを差し込み、トルクス T20 ドライバーで固定します。

7 **ステータスインジケータ**：Power インジケータは電源を入ると点灯します。Ready インジケータは、電源を入れた後、出力端子から音声を出力できる状態になると点灯します。

8 **ヘッドホン出力**：標準 1/4" フォーンジャック及び 3.5mm ステレオミニジャックのヘッドホン出力端子です。アームレストの下にもヘッドホン出力端子を備えています。

9 **Screen Out (画面出力)**：外部モニターを接続するための VGA ポートです。外部モニターは、いずれかのタッチスクリーン表示をミラーリングするか、3 番目の画面として使用することができます。設定は「Surface」>「Screen」画面で行います。

① 外部モニターはスクリーンのタッチはサポートしていません。



10 **ケンジントンロック**：標準の盗難防止用具であるケンジントンロックを装着するためのセキュリティーロットです。

11 **DX リンク**：DX エキスパンダーを Fast Ethernet (IEEE 802.3 レイヤー 2 準拠) で接続するための EtherCon ポートです。1 本の CAT5e またはそれ以上のカテゴリの LAN ケーブルで 32 × 32ch の 96kHz オーディオおよび制御信号を伝送します。

DX エキスパンダーとの間の信号のパッチングは「I/O」画面で行います。

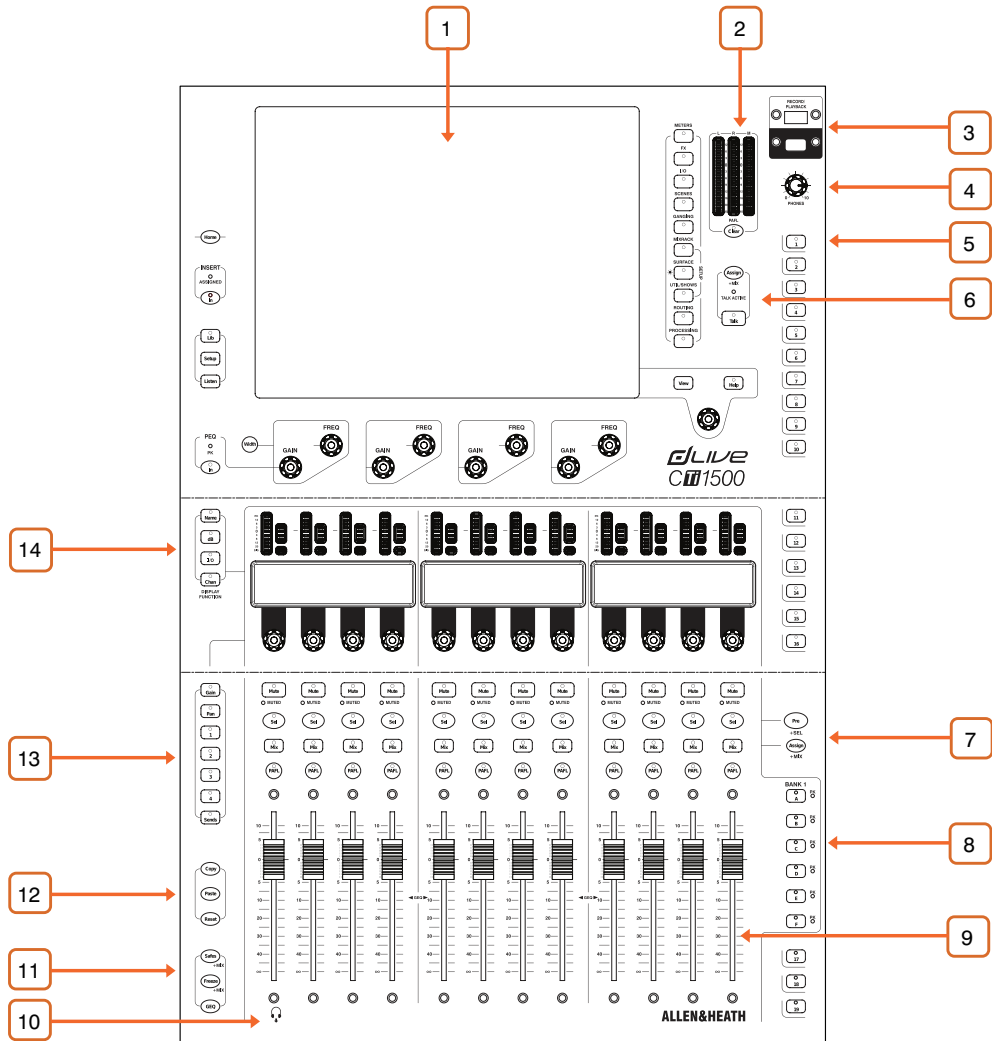
12 **ワードクロック I/O**：外部オーディオクロックとの同期または他の機器へのクロック供給のための BNC コネクタです。

13 **ネットワーク**：2 系統の RJ45 ギガビットイーサネットポートです。PC またはワイヤレス・ルーターを接続して、dLive Editor または iOS アプリで使用します。ネットワーク上のすべてのデバイスには、適合する IP アドレスが必要です。

14 **gigaACE リンク**：MixRack とサーフェイスを接続するギガビットイーサネット (IEEE 802.3 レイヤー 2 準拠) リンクです。Cat5e またはそれ以上のカテゴリの LAN ケーブル 1 本で双方向の 96kHz オーディオとコントロールを伝送します。

15 **Audio Sync Lock インジケータ**：有効なクロックソースと同期すると点灯します。

3. 前面パネル



1 **タッチスクリーン**: 1画面の12インチ静電容量式タッチスクリーンです。ジェスチャーコントロールに対応し、日中でも視認性に優れています。詳細については、セクション3.1「Harmony UI」を参照してください。

2 **メイン / PAFL メーター**: PAFL アクティブインジケータを備えた LCR メーターです。PAFL Clear を押すとアクティブな PAFL がキャンセルされます。

3 **USB ポート**: 上のポートは、ステレオ WAV ファイルの録音 / 再生専用です。下のポートは、ショーファイル、ライブラリ、イベントログ、ファームウェアアップデートのデータ転送用です。

4 **Phones (ヘッドホン出力レベル)**: ヘッドホン出力のアナログボリュームコントロールです。

5 **Soft Keys (ソフトキー)**: 19個のユーザーアサイン可能なキーです。機能のアサインは「Surface」>「Control」>「SoftKeys」画面で行います。

6 **トークバックキー**: Talk キー (ラッチまたはモーメンタリー動作) を押すと、Talk Active インジケータが点灯します。アサインするには、Assign を押しながらマスターの Mix キーを押します。

7 **Assign (アサイン)**: このキーを押しながらストリップの Mix キーを押すと、アクティブミックスへのアサインがオンまたはオフに切り替わります。

Pre / Post: このキーを押しながらストリップの Sel キーを押すと、アクティブミックスへのセンドがプリフェーダーまたはポストフェーダーに切り替わります。

Assign キーを押しながらマスターの **Mix** キーを押すと、すべてのチャンネルのオン／オフが切り替わります。また、Pre / Post キーを押しながらマスターの **Sel** キーを押すと、すべてのチャンネルのプリフェーダー／ポストフェーダーが切り替わります。

選択したチャンネルのアサインおよびミックスのプリフェーダー／ポストフェーダー設定は、「**Routing**」画面で行うこともできます。

8

Layers (レイヤー)：バンクごとに6つのフェーダーストリップレイヤーを切り替えます。赤色のピークインジケータは、対応するレイヤー内のチャンネルがクリップする5dB手前に達すると点灯するため、レイヤー全体の信号の状態を常時監視できます。

9

フェーダーストリップ：入力チャンネル、FXリターン、ミックス・マスター、DCA、エンジニアのモニター／IEMモニター、またはMIDIをコントロールします。詳細については、セクション3.3「フェーダーストリップ」を参照してください。

ストリップレイアウトはユーザーによるアサイン可能で、シーンに保存されます。ストリップレイアウトの編集は、「**Surface**」>「**Control**」>「**Strip Assign**」画面で行います。

10

ヘッドホン出力：アームレストの下に、標準 1/4" フォーンジャック及び 3.5mm ステレオミニジャックのヘッドホン出力端子を備えています。

11

Safes：このキーを押しながらストリップの **Mix** キーを押すと、シーンのリコールからセーフされます（変更から保護し反映させない。選択したパラメーターのみを保護するには、「**Scenes**」>「**Scene Safes**」画面を使用します。

Freeze：このキーを押しながらストリップの **Mix** キーを押すと、すべてのレイヤーにわたってチャンネルが所定位置に固定されます。

GEQ：フェーダーで選択されているミックスの GEQ を表示します。押すごとに「高域」→「低域」→「終了」が切り替わります。ストリップの LCD ディスプレイには周波数値が表示され、ストリップメーターには各周波数バンドの RTA とピークバンドが表示されます。これは、ステージモニタースピーカーの Ringing out (ハウリングのチェック) など、問題のある周波数を見分けるのに役立ちます。

このモードでは、ミックス・マスターフェーダーは右側のストリップに表示されます。

12

Copy：このキーを押しながら以下のキーまたは領域を押すことにより、以下のコピー操作を実行します。

- ストリップの **Sel** キー：チャンネルプロセッシングをコピーします。
- ストリップの **Mix** キー：ミックス・アサインとセンドレベルをコピーします。
- タッチスクリーン上のハイライト領域：特定のプロセッシングブロックの設定をコピーします。

Paste：このキーを押しながら **Sel** キー、**Mix** キー、またはタッチスクリーン上のハイライト領域を押すと、コピーした設定が貼り付けられます。

Reset：このキーを押しながら **Sel** キー、**Mix** キー、またはタッチスクリーン上のハイライト領域を押すと、関連パラメーターが工場出荷時の設定にリセットされます。

Reset キーを押しながらフェーダーを少し上げると 0dB に、少し下げるとオフに素早く設定できます。

13

Strip rotary mode (ストリップ・ロータリー・モード)：フェーダーストリップのロータリーエンコーダーの機能を選択します。フェーダーストリップのロータリーでコントロールできるのは、プリアンプのゲイン、パン、アクティブになっているミックス、および4つのアサイン可能な機能です。アサインは「**Surface**」>「**Control**」>「**Preferences**」画面で行います。ロータリー LED は、アクティブな機能に合わせて色が変わります（ゲイン=赤色、パッド=黄色など）。センドモードの場合、アクティブ・ミックスの色に従います。

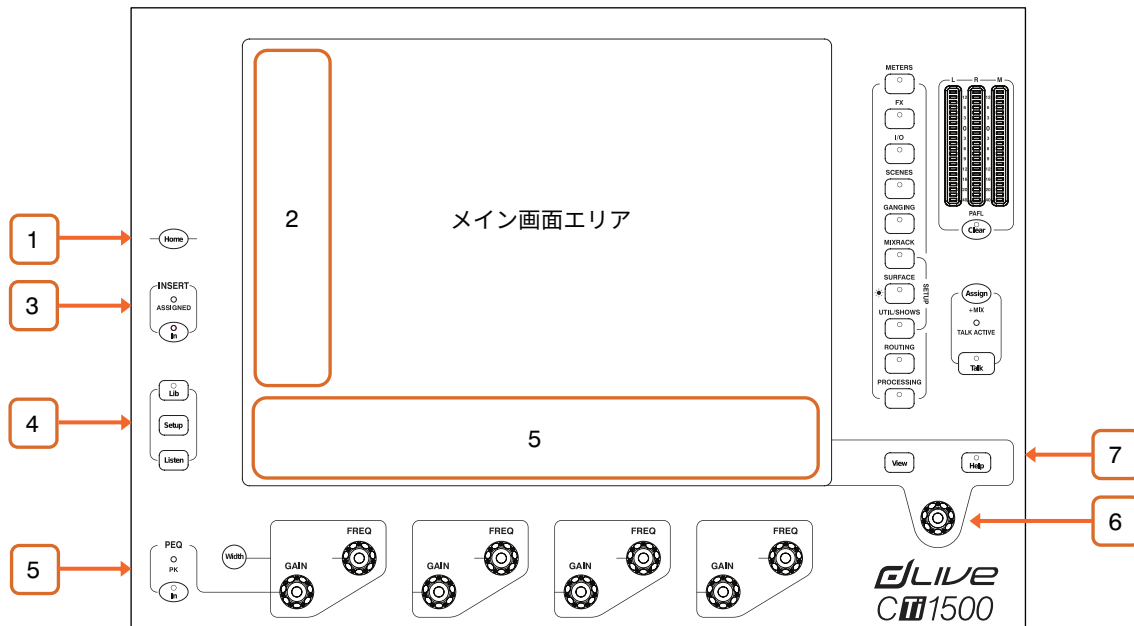
センド機能をアサインした場合、ストリップのロータリーエンコーダーでアクティブ・ミックスへのセンドレベルをコントロールし、フェーダーでメインミックスへのチャンネルレベルをコントロールします（つまり、センズ・オン・フェーダーが一時的に無効になります）。

14

LCD ディスプレイモード：ストリップの LCD ディスプレイに表示する情報を選択します。詳細については、セクション3.3「フェーダーストリップ」を参照してください。

3.1 Harmony UI

画面の専用エリアには対応するコントロールの値とステータスが表示され、一部のエリアはユーザーによる設定またはアサインが可能です（ウィジェットエリア）。これらのエリアをタップすると、メイン画面エリアに関連タブが開きます。



1 Home：サーフェイスを見慣れた状態に戻します。Home は、アクティブになっているレイヤー/ミックス/ストリップ ロータリー・モード/スクリーン・モード、およびチャンネルの LCD ビューのデフォルト状態に復元します。

① Home キーは、チャンネルプロセッシング、ストリップレイアウト、イルミネーション、シーンに保存されているその他の設定には影響しません。

2 プリアンプ/フィルター：この画面エリアは、チャンネルのプリアンプおよびフィルター専用です。

3 Insert：インサート In スイッチと Assigned インジケータです。Assigned インジケータは、いずれかのチャンネルインサートポイントにアサインされると点灯します。

4 Lib：選択中のチャンネルまたはプロセッシングブロックのプリセットライブラリーにアクセスします。ポップアップメニューが開き、ライブラリー Reca (II 呼び出し)、Store (保存)、Overwrite (上書き)、または Delete (削除) を行えます。Lib をもう一度押すと終了します。

Setup：このキーを押しながら画面のハイライト領域をタップすると、その領域の設定を行えます。例えば、ウィジェットエリアにタッチすると機能、表示、またはコントロールを設定でき、メイン画面エリアにタッチすると表示されている項目のオプションを表示できます。

Listen：このキーを押しながら画面のハイライト領域をタップすると、選択チャンネルの信号経路内のそのポイントを検聴できます。この信号は、一時的に PAFL バスおよび関連メーターに優先します。

5 PEQ：4 バンドのパラメトリック EQ の In スイッチ、ピーク・インジケータ、Width (幅)、Freq (周波数)、Gain (ゲイン) のコントロールを備えています。バンド幅を調整するには、**Width** キーを押しながら Frequency コントロールを回します。

① **Width** ボタンは、「Processing」>「PEQ」画面の「Setup」を押し、「Enable Width Latch」にタッチすることにより、ラッチ動作に設定できます。

画面の専用エリアには、4 つのバンドごとまたは全バンドの PEQ パラメータ/特性カーブが表示されます。このエリアは、スクロール可能なメーターブリッジなどの機能として設定することもできます。設定するには、**Setup** キーを押しながらこのエリアにタッチ

します。**View** キーを押すと設定された表示が切り替わります。

6 **タッチ & ターン**：メイン画面エリア内のパラメーターまたは設定にタッチし、その値をロータリーコントロールで調整します。

7 **Help**：アクティブな画面の簡潔なヘルプテキストを表示します。

3.2 Screen (画面) モード

各スクリーン・モード・ボタンにより、メイン画面エリアのメニューを選択します。



Meters：入力メーター、FX メーター、ミックスメーター、RTA、スペクトログラム、および 4 つのカスタマイズ可能なメータービューにアクセスできます。

FX：16 の RackFX ユニットの表示、読み込み、設定を行います。各ユニットは、「Back Panel」ビューでインサートまたはセンド/リターンとしてパッチできます。

I/O：クロスポイントをタップすることでシステム入出力をパッチします。

Scenes：Scene Manager、Cue Lists、Scene Safes にアクセスできます。

Ganging：選択したパラメーターを複数のチャンネルにわたってリンクするギャンググループを作成します (最大 16)。

MixRack Setup：ミキサーのバス構成、入力ステレオ構成、ネットワーク設定、ユーザープロファイル、トークバックアサイン、シグナルジェネレーター、音声同期、および I/O ポートオプションにアクセスできます。

Surface Setup：フェーダーストリップレイアウト、ソフトキー、およびカスタムロータリー機能のアサイン、サーフェイスのイルミネーションと USB オーディオプレイバック/レコーディングのコントロール、PAFL オプション、およびネットワーク設定にアクセスできます。

Util/Shows：Show Manager、Library Manager、システム診断、画面/フェーダーのキャリブレーション、ファームウェアアップデート、MIDI MMC (MIDI Machine Control) にアクセスできます。

Routing：選択チャンネルのルーティングとアサインにアクセスできます。

Processing：選択チャンネルのチャンネルプロセッシング画面を開きます。

画面モードが選択されていない場合、「**System Status**」ダッシュボードが表示されます。この画面の「Power Down」にタッチすると、サーフェイスの電源スイッチを OFF にする前に安全に電源を切ることができます。

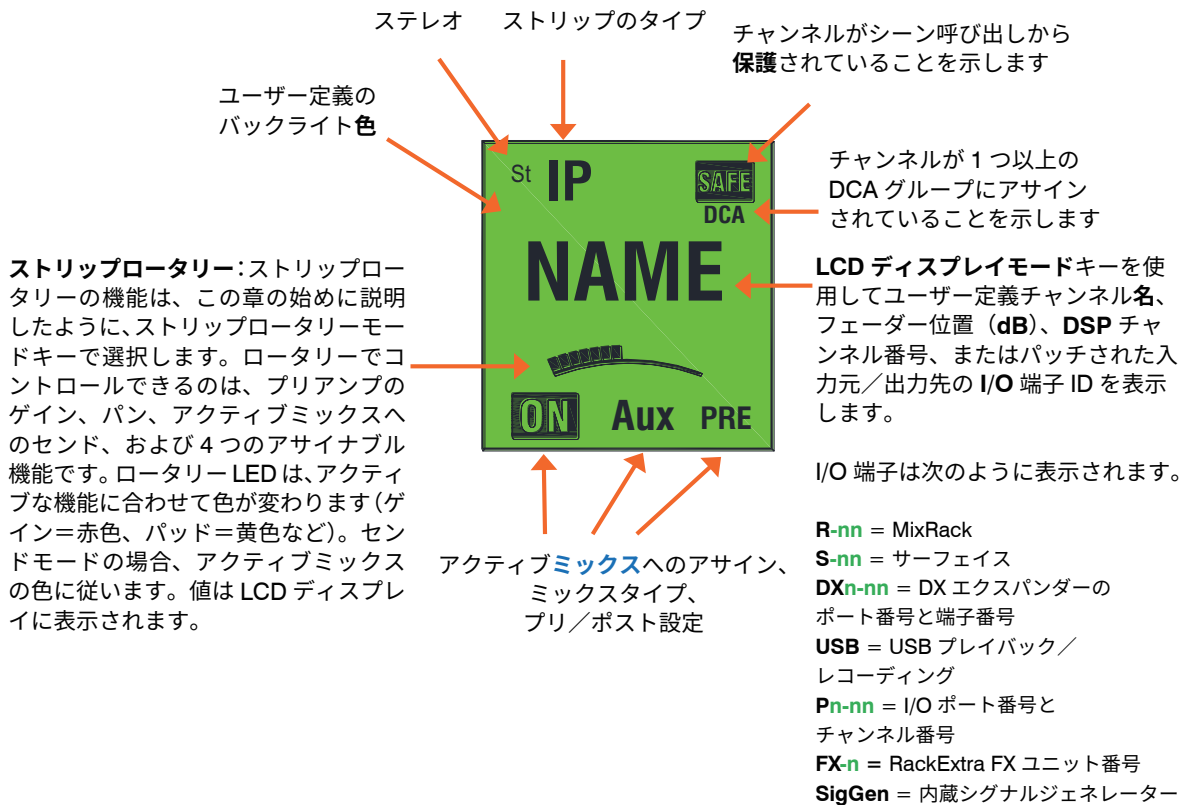
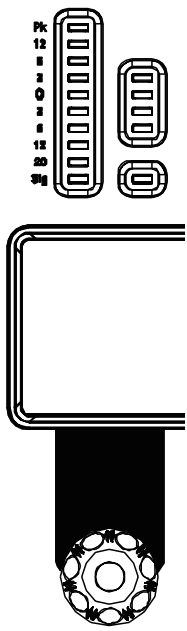
3.3 フェーダーストリップ

メーター：10セグメントの信号メーターと4セグメントのゲインリダクションメーターを備えています。信号メーターは、そのチャンネルの音声信号の状態を表示します。

赤色のピークインジケータは、信号がクリップする5dB手前に点灯して警告します。これはマルチポイント測定です（つまり、信号経路内のいくつかのポイントでピークを検出します）。他のメーターの前にこのインジケータが点灯する場合、「Processing」画面で信号の状態を確認してください。

① 入力チャンネルおよびミックスマスターのグローバルメーター測定ポイントを設定するには、「Setup」を押しながら「**Meters**」>「**Inputs**」または「**Meters**」>「**Mix**」画面のメイン画面エリアをクリックします。

LCD ディスプレイ：チャンネルに関する情報（名前や色など）を表示します。



ストリップロータリー：ストリップロータリーの機能は、この章の始めに説明したように、ストリップロータリーモードキーで選択します。ロータリーでコントロールできるのは、プリアンプのゲイン、パン、アクティブミックスへのセンド、および4つのアサインナブル機能です。ロータリーLEDは、アクティブな機能に合わせて色が変わります（ゲイン=赤色、パッド=黄色など）。センドモードの場合、アクティブミックスの色に従います。値はLCDディスプレイに表示されます。



Mute：チャンネル信号をミュートします。メインミックス、プリフェーダー/ポストフェーダーセンドに影響します。チャンネルがDCAまたはミュートグループによってミュートされると、Mutedインジケータが点灯します。



Sel：「Processing」および「Routing」画面で使用するチャンネルを選択します。チャンネルストリップコントロールがアクティブになり、チャンネルのプロセッシングをコントロールできます。

① 選択中のチャンネルは「Processing」画面の左上隅に表示されます。



Mix：対応するチャンネルまたはマスターのセンドレベルおよびアサインをフェーダーストリップ（またはロータリーがセンドモードの場合はストリップロータリー）に割り当てます。使用例は次のセクションを参照してください。



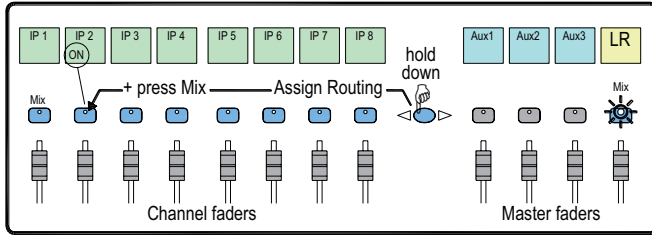
① 現在のアクティブミックスは「Processing」画面の右上隅に表示されます。アクティブな**Mix**キーを押すとメインミックスに戻ります。

PAFL：チャンネル信号をPFL（Pre-Fade Listen）またはAFL（After-Fade Listen）でヘッドホンおよびモニタリングシステムに送ります。PAFLシステムの基本設定は「**Surface**」>「**Audio**」>「**PAFL**」画面で行います。

3.4 ミックスの操作方法

ノーマルミックスモード (FOH)

メインミックスがアクティブ

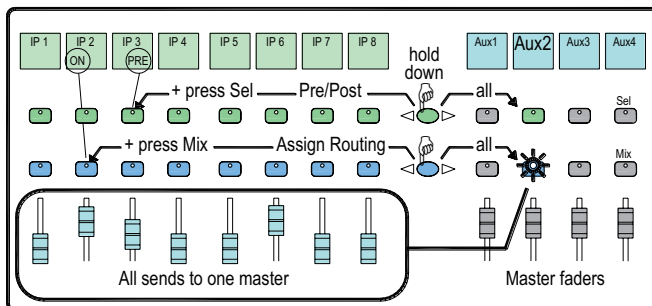


メインミックスマスターストリップの **Mix** キーを押します。

これがノーマルミキシングモードです。入力ストリップはチャンネルフェーダーとして機能し、マスターストリップはマスターミックスフェーダーとして機能します。

メインミックスにアサインまたはアサイン解除するには、**Assign** キーを押しながらチャンネルの **Mix** キーを押します。アサインすると、ストリップ LCD の下部に「ON」と表示されます。

マスターミックスモード フェーダーで AUX、FX、マトリクスミックスにアクセス



ミックスマスターストリップの **Mix** キーを押します。

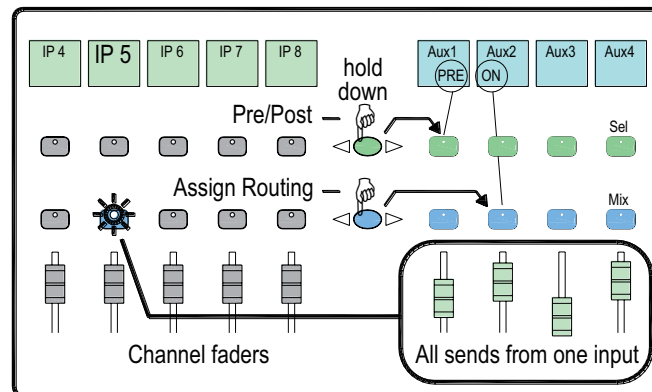
このモードは、AUX および FX センドを操作する場合に使用します。入力ストリップはアクティブミックスへのセンドレベルとして機能し、マスターストリップはマスターミックスフェーダーとして機能します。

アクティブミックスにアサインまたはアサイン解除するには、**Assign** キーを押しながらチャンネルの **Mix** キーを押します。

各ソースのプリフェーダー/ポストフェーダーを切り替えるには、**Pre / Post** キーを押しながらチャンネルの **Sel** キーを押します。プリフェーダーに切り替えると、チャンネルストリップ LCD の下部に「PRE」と表示されます。

マスターストリップの **Mix** キーを押すとすべてのアサインの ON/OFF、**Sel** キーを押すとすべてのソースのプリフェーダー/ポストフェーダーの設定を素早く行うことができます。

チャンネルミックスモード



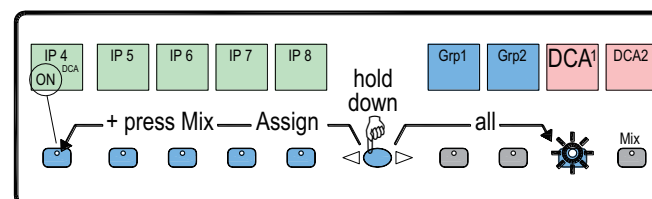
入力チャンネルストリップの **Mix** キーを押します。

このモードは、AUX および FX センドを操作する場合に使用します。入力ストリップはチャンネルフェーダーとして機能し、マスターストリップは入力チャンネルからのすべてのセンドとして機能します。

各ミックスからのチャンネルをアサインまたはアサイン解除するには、**Assign** キーを押しながらマスターの **Mix** キーを押します。

各ミックスへのチャンネルのプリフェーダー/ポストフェーダーを切り替えるには、**Pre / Post** キーを押しながらマスターの **Sel** キーを押します。プリフェーダーに切り替えると、マスターストリップの LCD に「PRE」と表示されます。

DCA / 音声グループアサインモード



グループマスターストリップの **Mix** キーを押します。

このモードは、音声グループや DCA グループにチャンネルをアサインする場合に使用します。入力フェーダーおよびマスターフェーダーは影響を受けません。

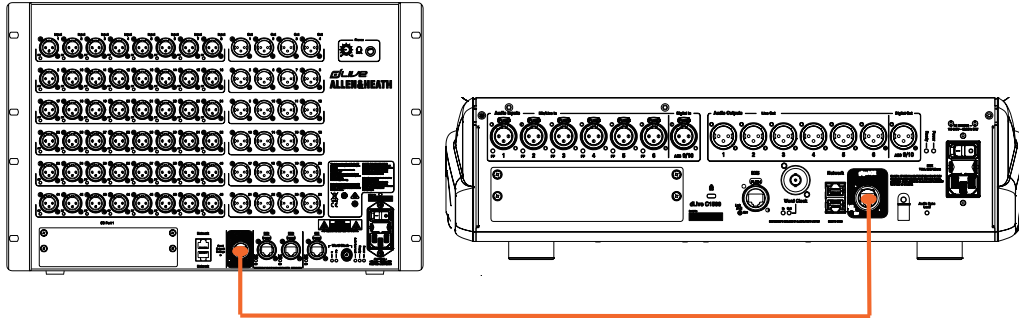
グループにチャンネルをアサインまたはアサイン解除するには、**Assign** キーを押しながらチャンネルの **Mix** キーを押します。

4. 接続と電源投入

4.1 MixRack の接続

dLive サーフェイスと MixRack gigaACE ポートは、ツアリンググレードの Cat5e またはそれ以上のカテゴリの LAN ケーブルで接続します(最長 100m)。S Class Mix Rack の DM32/48/64 を使用する場合は gigaACE ポートの A 側のみを使用してください。

- ① 接続には STP/FTP CAT5e 以上のケーブルを使用してください。



サーフェイスの電源を入れ、リンクが確立されると gigaACE Lnk/Err インジケータが一定の間隔で点滅します。通信エラーが検出された場合、エラーインジケータが赤く点灯します。ケーブルが正しく接続され、破損していないことを確認してください。

MixRack、サーフェイスの順に電源を入れます。

タッチスクリーンが反応するようになるまで約 30 秒かかります。

4.2 テンプレートショーの呼び出し

dLive は、オーディオアーキテクチャー、コントロールレイアウト、および端子パッチを自由に設定できます。セットアップの出発点として、代表的なコンソールをシミュレートした一連のテンプレートショーが用意されています。それらを読み込むことにより、十分な機能を備えたアナログコンソールの一般的なアーキテクチャーと論理レイアウトを再現できます。

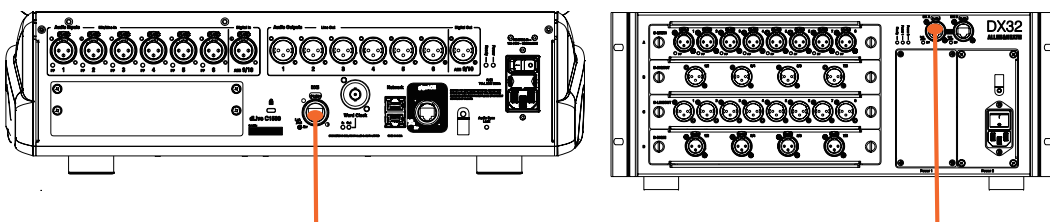
テンプレートショーを読み込むには、「Utility」>「Show Manager」画面を開き、目的のテンプレートショーを選択し、**Recall** にタッチし、確定します。

- ① ショーを Recall (呼び出し) すると、バス構成、コントロールレイアウト、現在のパラメーター、すべてのシーン、およびライブラリプリセットを含め、すべてのシステム設定が上書きされます。現在の設定を保存したい場合は、最初にユーザーショーとして **Store (保存)** してください。
- ① 詳細については『dLive ファームウェアリファレンスガイド』を参照してください。

4.3 エキスパンダーの接続

DX エキスパンダーとサーフェイスの DX ポートは、ツアリンググレードの Cat5e またはそれ以上のカテゴリの LAN ケーブルで接続します (最長 100m)。

- ① 接続には STP/FTP CAT5e 以上のケーブルを使用してください。



DX エキスパンダーの電源を入れ、リンクが確立されると、DX ポートの Lnk/Err インジケータが一定の間隔で点滅します。通信エラーが検出された場合、エラーインジケータが赤く点灯します。ケーブルが正しく接続され、破損していないことを確認してください。

4.4 PC またはワイヤレスルーターの接続

dLive Editor または iOS アプリを使用するには、PC、ルーター、またはアクセスポイントをいずれかのネットワークポートに接続します。詳細については、ソフトウェアまたはアプリのリリースノートおよびヘルプファイルを参照してください。

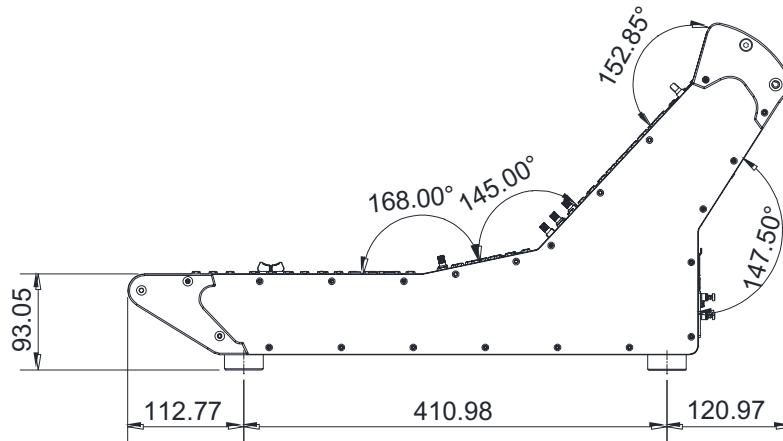
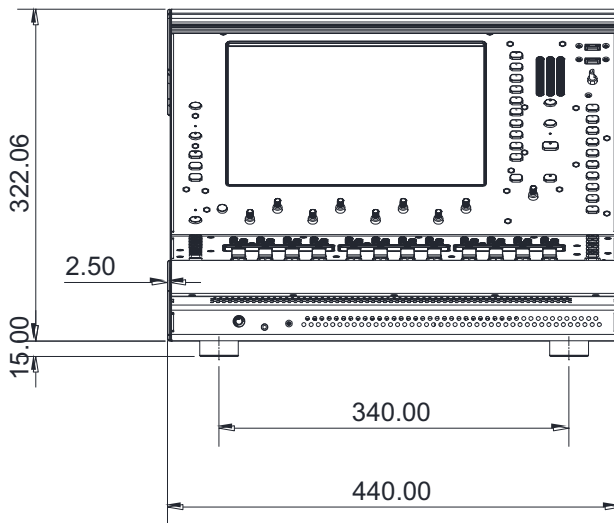
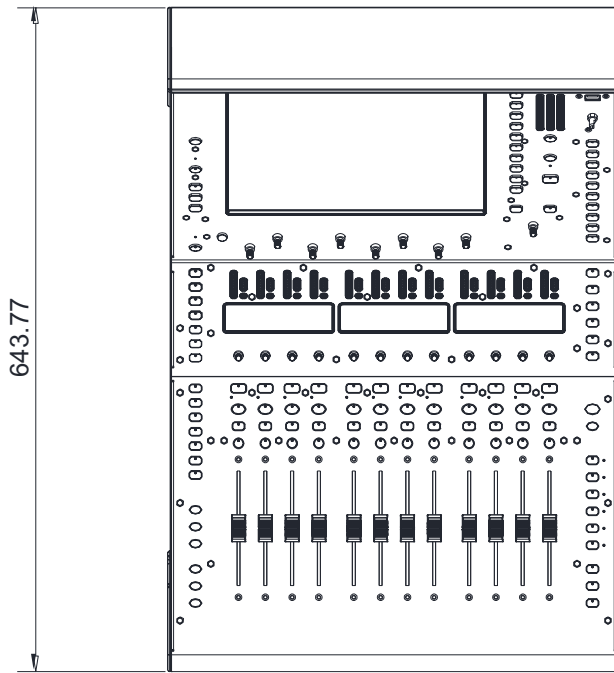
- ① dLive は TCP/IP で通信を行います。MixRack とサーフェイスを含め、ネットワーク上のすべての機器を同一サブネット内の IP アドレスに設定する必要があります。工場出荷時の設定は次のとおりです。

MixRack	192.168.1.70
サーフェイス	192.168.1.71
サブネットマスク	255.255.255.0
ゲートウェイ	192.168.1.254

ラップトップを直接接続する場合、ラップトップを同一サブネット内の固定 IP アドレス（例：**192.168.1.10**）に設定します。

ワイヤレス接続の場合、ルーター／アクセスポイントを同一サブネット内の IP アドレス（例：192.168.1.254）、DHCP 範囲を同一サブネット内のアドレス範囲（例：**192.168.1.100** ～ **192.168.1.200**）に設定します。ワイヤレスラップトップまたはモバイルデバイスは「DHCP」（IP アドレスを自動的に取得）に設定します。

5. 寸法



6. 技術仕様

入力 (Mix Rack CDM シリーズと接続の場合)

マイク/ライン入力 (XLR)	バランス XLR、 +48V ファンタム電源
マイク/ラインプリアンプ	フルリコーラブル
入力感度	-60 ~ +15dBu
アナログゲイン	+5 ~ +60dB (1dB ステップ)
パッド	-20dB アクティブパッド
最大入力レベル	+30dBu (パッド In)
入力インピーダンス	>4k Ω (パッド Out)、 >10k Ω (パッド In)
マイク等価入力ノイズ	-127dB (150 Ωソース)
ファンタム電源表示	端子ごと、 内部/外部ファンタム電源検出、 24V トリガー
デジタル入力	AES3 × 2 (バランス XLR、2.5Vpp、110 Ω) サンプリングレート：32k ~ 192kHz (バイパスオプション付き)

出力 (Mix Rack CDM シリーズと接続の場合)

アナログ XLR 出力	バランス
出力インピーダンス	<75 Ω
定格出力	+4dBu = 0dB (メーター読取)
最大出力レベル	+22dBu
残留出力ノイズ	-92dBu (ミュート、20 ~ 20kHz) -90dBu (ミュート、20 ~ 40kHz)
デジタル出力	AES3 × 2 (バランス XLR、2.5Vpp、110 Ω) サンプリングレート：96kHz (48kHz、44.1kHz に切替可能)

寸法/質量

本体	W × D × H、質量
CTi-1500	440 × 643.77 × 337mm、約 11.5kg

システム (Mix Rack CDM シリーズと接続の場合)

バランス XLR 入力 ~ XLR 出力、20 ~ 20kHz、最小ゲイン、 パッド Out で測定	
ダイナミックレンジ	110dB
S/N 比	-92dB
周波数特性	20Hz ~ 30kHz +0/-0.8dB
THD+N (アナログ入力から出力)	0.0015% @ +16dBu 出力、 1kHz 0dB ゲイン
ヘッドルーム	+18dB
内部動作レベル	0dBu
dBFS アラインメント	+18dBu = 0dBFS (+22dBu@XLR 出力)
メーターキャリブレーション	0dB メーター = -18dBFS (+4dBu@XLR 出力)
メーターピーク表示	-5dBFS (+19dBu@XLR 出力)
サンプリングレート	96kHz +/- 20PPM
AD コンバーター	24bit Delta-Sigma
DA コンバーター	24bit Delta-Sigma
レイテンシー	0.7ms (MixRack XLR 入力 ~ XLR 出力、入力 ~ ミックス) +5 サンプル、サーフェイス ~ MixRack (GigaACE リンク) +8 サンプル、DX32 ~ MixRack (DX リンク)
動作温度範囲	0°C ~ 35°C
電源	100 ~ 240V AC、50/60Hz、
消費電力	110W
USB オーディオ プレイバック	モノ/ステレオ .WAV ファイル、 16/24bit、44.1/48/96kHz
USB オーディオ レコーディング	ステレオ .WAV ファイル、 24bit 96kHz

ALLEN & HEATH

- この製品を安全にお使いいただくために、設置・運用には十分な安全対策を行ってください。
- 商品写真やイラストは、実際の商品と一部異なる場合があります。
- 掲載内容は発行時のもので、予告なく変更されることがあります。変更により発生したいかなる損害に対しても、弊社は責任を負いかねます。
- 記載されている商品名、会社名等は各社の登録商標、または商標です。



ヒビノインターサウンド株式会社

〒105-0022 東京都港区海岸2-7-70 TEL: 03-5419-1560 FAX: 03-5419-1563
E-mail: info@hibino-intersound.co.jp <https://www.hibino-intersound.co.jp/>

2022年12月版